リスク管理

方針

当社グループは、事業戦略に対して直接または間接の損失発生、事業の中断や停止、信用・ブランドイメージを損なう等のリスクについて管理しています。事業を取り巻くリスクは、戦略、財務、オペレーション、ハザードの各リスクに分類され、それぞれのリスクの蓋然性や影響度に合った方針と体制を整備、運営しています。

体制

当社グループの経営全体または事業の各分野において特に重要なリスク管理の基本的枠組みは「グループ・リスク管理規則」に規定し、リスクの特定は、潜在リスクの特定→蓋然性評価→影響度評価のプロセスで行います。特定されたリスクに対して危機対応計画を含むリスク管理方針や体制を整備し、それぞれ年次計画を策定して計画に沿ってリスク管理を行います。

リスクごとの主管部門は、それぞれの重点対策リスクを当社グループ全体のリスクとして認識し、全体および個別リスクの低減、回避、危機発生時の対応が実践できるよう管理しています。グループ各社のリスク管理状況は品質監査、環境監査、労務監査、IT監査などのリスク管理部門が行う監査によってモニターし、その状況はリスク管理部門から、個別課題状況または全般状況としてリスク管理責任者である社長に報告され、当社グループ経営会議、その後取締役会へ年2回報告されます。

2022年度計画と取組み

リスクカテゴリ	主なリスク	影響対象				対応	評価
		財務	スケジュール	リソース	顧客満足度		
製品・サービスの欠陥	• JIS認証違反、品質不正	●		●	●	• JIS監査、特別監査実施、品質保証体制強化	○
	• 新規性リスク		●		●	• ハイリスク案件の抽出とサポート	○
	• サプライヤー起因の重大品質事故	●		●	●	• サプライヤー監査の実施	○
	• コンプライアンス意識の低下			●		• コンプライアンス講演会の開催	○
	• 商品起因の人身事故	●			●	• SDS整備	△
	• 品質規格の理解不足				●	• 集合教育実施、外部講師招へい、内部講師育成	○
環境問題	• 環境トラブル	●		●		• 迅速な情報発信、情報共有、再発防止	○
	• 環境法令違反	●		●		• 法令勉強会開催、監査実施時に指摘、改善措置	○
	• 環境実務人財不足			●		• 実務管理情報の共有、次世代への過去案件周知	○
	• 環境設備劣化			●		• 定期的な点検や更新、トラブル回避設備の予防設置	○
	• 脱炭素目標から遅れ	●	●		●	• モニタリングの継続	○
自然災害・事故災害	• 雨畑ダム周辺地域浸水	●				• 基本計画の実行、進捗状況の関係者共有	○
	• 災害等による事業中断		●			• 情報収集、共有体制構築	○
						• BCP訓練、安否確認訓練の実施	○
安全衛生問題	• 挟まれ巻き込まれ災害			●		• 休業災害等の現地確認	○
	• 作業時における法令違反行為			●		• 違反現場での確認、教育実施、作業計画表作成	○
情報システム問題	• サイバーアタック	●		●		• CSIRT訓練実施、情報収集、セキュリティー製品追加	○
	• ソフトウェアライセンスコンプライアンス	●		●		• ソフトウェア内部監査実施	○
	• 情報システムの不正利用／不備	●				• ITGC有効化システムの拡大、ITAC強化	○
企業秘密流出	• 電子情報資産の流出	●		●		• IT診断の全実施	○
						• 標的型攻撃メール訓練の実施	○
						• ペネトレーションテストの全実施	○
安全保障輸出	• 無許可輸出		●	●	●	• 該非判定状況確認、個別相談	○
						• 輸出管理委員会の定期開催、管理状況の確認	○
	• 貿易規制抵触		●	●	●	• 法改正情報の発信	○

○：完備、若しくは年度進捗目標を達成
△：取組みはあったが、目標未達